

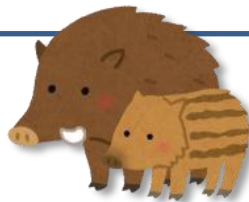
# 見学ワークシート(小学生向け)

せいぶつたようせい  
~生物多様性にまつわる7の挑戦~



## クイズ1の答え

### ①イノシシ

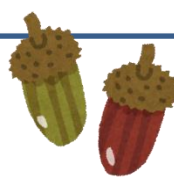


イノシシ

イノシシの足あととは、小さな「ひづめ」のあとが2つつきます。生きものの足あとやフン、食べあとなどは“フィールドサイン”とよばれ、その森にどんな生きものがいるかがわかるんだよ。きみも、フィールドサインを見つけてみよう！

## クイズ2の答え

### ㊦ヒグマ、㊩ツキノワグマ



ヒグマは北海道にすんでいて、ヤマブドウなどの植物の果実や時には、シカなどを食べたりします。ツキノワグマは、本州や四国にすんでいて、ブナ類などのドングリが大好きです。大人のヒグマは、200～230センチあって、ツキノワグマだと110～130センチあります。同じグマでも違いがありますね！

## クイズ3の答え

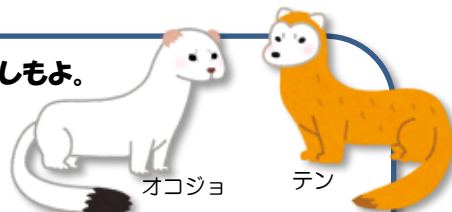
### ②それぞれが地球上のいろいろな気候や地形などの環境に合わせて暮らしているため。

長い時間をかけて、その場所の気候や地形などの環境に合わせて進化と退化をくりかえしてきました。そのため、体の特徴は暮らす場所によって違います。このように生きものたちの特徴は、それぞれの暮らす場所ととても深いつながりがあることがわかります。面白いですね！

## クイズ4の答え

キミもどうなの？わたしもよ。

### ①白い雪の上でも天敵に見つからないようにするため。



オコジョ

テン

冬になり雪がふると、かくれることができる草や木が雪の中にうまってしまいます。そのためノウサギは雪の上でも見つかりにくいように、毛の色を変えます。でも雪のふらない温かい場所で暮らすノウサギは一年中茶色い体をしています。その場所に合わせて暮らしていることがよくわかりますね。他にも季節で体の色が変わる生きものがたくさんいます。さあ、調べてみましょう！

## クイズ5の答え

ひとつでも書けたら正解だよ。

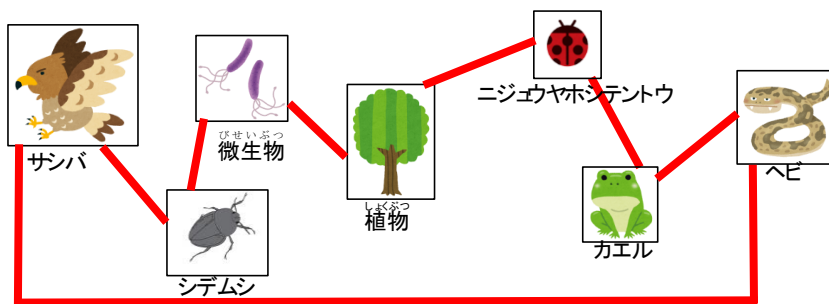
【住んでいる場所】<sup>ひょうごう</sup>標高の高い山

【いつからいるの?】<sup>ひょうがき</sup>氷河期

【住んでいる場所に合った体の特徴は?】冬は白い羽になる・足の指にくしのような突起がある<sup>うもろ</sup>羽毛で足をおおって温かくしている

ライチョウは<sup>ひょうごう</sup>標高の高い山に暮らしています。<sup>ひょうがき</sup>氷河期からいるため、<sup>ひょうがき</sup>氷河期が終わった現在は、<sup>すず</sup>涼しい高山だけに暮らしています。スズメやカラスの様に色々な場所で暮らせる鳥もいれば、ライチョウのように<sup>かぎ</sup>限られた場所にだけ暮らす鳥もいます。

## クイズ6の答え



<sup>てんじしつ</sup>答えは展示室の丸い扉の中。<sup>とびら</sup>もう一度じっくりお話をきいてみよう!

強いサンバでも、死んだら小さなシテムシの<sup>しょくりよう</sup>食料となり、そのシテムシも死ねば<sup>ひせいぶつ</sup>微生物が<sup>ぶんかい</sup>分解して土になります。その土が植物を<sup>そだ</sup>育て、その植物を食べている色々な動物が生きています。こうして生きものは「食べる」あるいは「食べられる」という<sup>かんけい</sup>関係をとおして、さまざま<sup>つな</sup>つながりをもっています。このつながりを「<sup>しょくもつれんき</sup>食物連鎖」といいます。

## クイズ7の答え

### ②と③のようほう



生きものにとって、<sup>ぼしよ</sup>暮らしている場所はとても大切です。<sup>たいせつ</sup>移動することが得意な生きものは、その場所を<sup>あきら</sup>あきらめて新しい場所に<sup>ひ</sup>引っ越すかもしれません。ですが、<sup>いどう</sup>移動することができない生きものはもしかしたら死んでしまうかもしれません。<sup>きんねん</sup>近年は私たち人間の活動によって、生きものたちの<sup>ぼしよ</sup>暮らす場所の<sup>きこう</sup>気候や<sup>ちけい</sup>地形などの環境が変わってきています。私たちと生きものをつながりを考えてみましょう。